

平成22事業年度業務実績報告書の概要

世界を視野に 地域から始めよう

目 次

1. 大学の基本的な目標	1
2. 大学の概要	2
3. 教育研究等の質の向上の状況	3
(1) 教育の質の向上に関する取組の状況	3
(2) 学生支援の充実に係る取組	6
(3) 研究の質の向上に関する取組	7
(4) 社会との連携の強化	9
(5) 教育研究活動に関連した国際貢献	11
(6) 附属病院に関する取組	12
(7) 附属学校園に関する取組	13
4. 業務運営・財務内容等の状況	14
(1) 業務運営の改善及び効率化の重点的な取組	14
(2) 財務内容の改善の重点的な取組	15
(3) 自己点検評価及び情報提供の重点的な取組	16
(4) その他業務運営の重点的な取組	17

1. 大学の基本的な目標

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、変動する時代並びに多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出す。国際的に通用する研究活動を積極的に行い、その成果を大学の教育に反映させるとともに、地域をはじめ広く社会の発展に役立てる。人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。



宮崎大学長
菅 沼 龍 夫

【教育】

共通教育、専門教育及び大学院教育を通して、本学の教育目標に掲げる「人間性」、「社会性・国際性」、そして「専門性」を培う教育を実施し、その質の向上を図るとともに、多様な地域社会の要請に応えることのできる有為の人材を育成する。

【研究】

諸学の連携・融合による特色ある研究を通して、国際的に通用する研究活動を積極的に行い、地域から世界へ発信できる高度な学術研究を推進する。

【社会貢献】

宮崎県、県工業会、JA宮崎経済連等との連携により、地域社会から信頼される高等教育機関として、教育・研究の成果を活用し、地域社会問題の解決に努めるとともに、広く生涯学習の機会を提供し、積極的に地域に貢献する。また、宮崎県やJICA等との連携を強化し、国際社会に貢献する。

【医療】

宮崎県で唯一の特定機能病院として、機能を強化し、患者に分かりやすい診療体制や患者のアメニティーに配慮した病院再整備を行うとともに、地域社会から信頼される大学病院としての医療を実践する。

2. 大学の概要

(1) 学部等の構成

学 部 : 教育文化学部、医学部、工学部、農学部

研 究 科 : 教育学研究科、医科学看護学研究科、工学研究科、農学研究科、
医学獣医学総合研究科、農学工学総合研究科

別 科 : 畜産別科

附属施設等 : 図書館、産学・地域連携センター、教育・学生支援センター、フロンティア科学実験総合センター、
国際連携センター、安全衛生保健センター、情報統括機構(情報基盤センター)

教育文化学部附属 : 教育実践総合センター、幼稚園、小学校、中学校

医学部附属 : 病院

農学部附属 : フィールド科学教育研究センター、動物病院、農業博物館



(2) 学生数及び教職員数(平成22年5月1日現在)

学 生 数 : 学部学生 4,842人(33人)
大学院生 734人(55人)

注:()内は外国人留学生で内数

教 職 員 数 : 教員 663人、職員745人

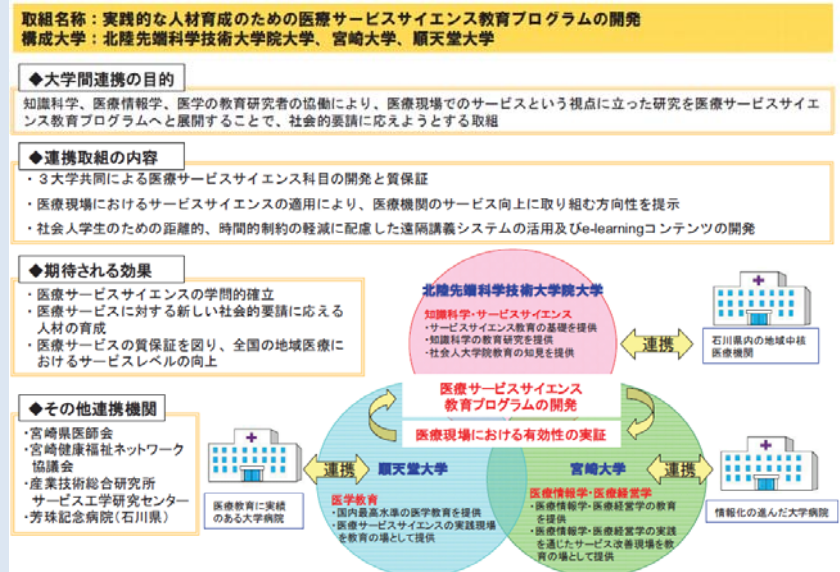
3. 教育研究等の質の向上の状況

(1) 教育の質の向上に関する取組

- 1) 国際的に活躍できる専門職業人育成を目指し、基本4技能に必要な語彙力及び文法力の到達目標に対する学生のレベルアップを図るため、文部科学省特別経費「コミュニケーションスキルを備えた専門職業人育成を目指す学士課程一貫の英語学習プログラムの推進」を活用。
- 2) 医学部学生の臨床実践能力の向上を図るため、臨床技術トレーニングセンターにおけるシミュレーション教育の充実とフィジカルアセスメントモデルを導入。(医学部)
- 3) 英語教育の質の向上を図るため、質の高い大学教育プログラム「複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成」の中で教育改革を行い、EMP(医師のための英語)、ENP(看護師のための英語)を開講。(医学部)
- 4) 北陸先端科学技術大学院大学、順天堂大学と連携して、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「実践的な人材育成のための医療サービスサイエンス教育プログラムの開発」を継続実施、3大学共同による医療サービスサイエンス科目を開発。(医学部)



「複視眼的視野を持つ国際医療人の育成」プログラムの取り組みの背景



実践的な人材育成のための医療サービスサイエンス教育プログラムの開発

5) 医療サービスレベルの向上を図るため、「中九州三大学病院合同専門医養成プログラムー地域医療支援と臨床研究推進の共有システム構築ー」において、他大学と連携。
(医学部)

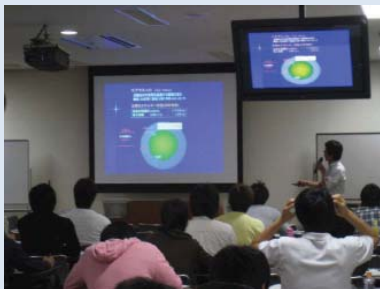
6) 大学改革推進事業「周産期対策のための医療環境の整備」により、「リスクのある妊産褥婦及び正常新生児」も含めた、妊娠・分娩・産褥期の管理ができる高度な助産師養成のための実践教育を実施。(医学部)



中九州三大学病院合同専門医養成プログラム

7) 教育環境として、正常分娩だけでなく、多少リスクがあっても経膈分娩が可能な産婦を対象とした院内助産ユニット「宮崎大学医学部附属病院院内助産システム」を構築。(医学部)

8) 大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「自主を促す工学技術者キャリア教育プログラム」に取り組み、技術者としての幅広い知識と社会性の獲得に向けて 課題探求力やデザイン力を育てるため、企業等の講師による知識講座、企業研修用に開発されたオリエンテーリングタイプのチームワーク野外研修を導入。(工学部)



太陽光エネルギー変換特別セミナー



野外体験学習BSR
(ビジネス・シミュレーション・ラリー)

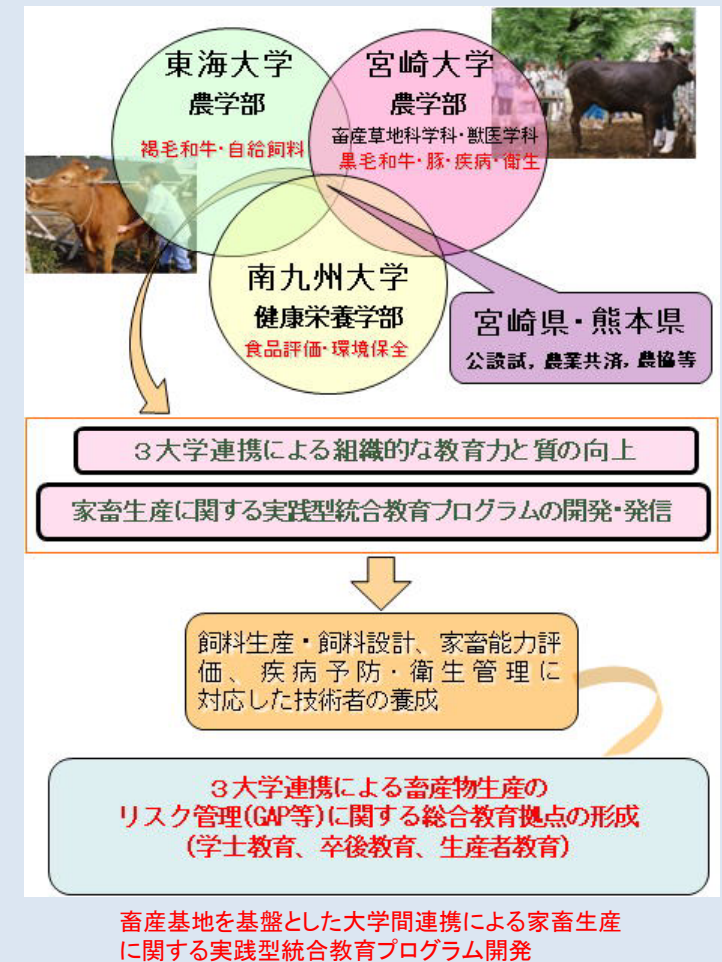
9) 新エネルギー社会の形成において一翼を担う高度専門人材を育成するため、経済産業省産業技術人材育成支援事業「産学人材育成パートナーシップ等プログラム開発・実証事業」により、「太陽光エネルギー変換特別セミナー」を開講。(工学研究科)

10) 「畜産基地を基盤とした大学間連携による家畜生産に関する実践型統合教育プログラム開発」に参加し、九州内の私立大学と産業動物に関する教育連携を実施。(農学部)

11) 国内の獣医系大学との教育連携のワーキンググループを設置、口蹄疫などの家畜伝染病や人獣共通感染症等の国際的な教育連携を進めるために韓国、中国等の東アジア諸国の獣医系大学との教員の交流を実施。(農学部)

12) 文部科学省特別経費「生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開」により、国際的視野を備えた生物遺伝資源に関する専門技術者の育成を開始。(農学研究科)

13) 異分野融合型研究科の特徴を発揮し、大学院教育の充実を図るため、頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム「人獣共通感染症および越境感染症制圧のための研究・人材育成ネットワークの構築」に採択。デンマーク、ベルギー、米国に大学院生を派遣。(医学獣医学総合研究科)



(2) 学生支援の充実に関する取組

- 1) 学生に対する教育支援と就職等の学生支援に対応するため、教育研究・地域連携センターを教育・学生支援センターに改組再編。



チャレンジ・プログラム成果発表会
(右:学長)

- 2) キャリア教育の一環として、学生の自主性・社会性等を育成するために「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」を実施し、21件の企画を採択。

- 3) 学内からの意見を聞くため、学長と学生・教職員と一緒に昼食をとりながら、進路やゼミ、サークル活動、日常の研究や業務について、ざっくばらんに語り合う「学長とのランチオンミーティング」を開催。



学長とのランチオンミーティング

- 4) 卒業研究で学生が取り組む「研究テーマ」を広く社会から募集するため、宮崎大学独自の取組を県内11高等教育機関と連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」での取組に拡大。

- 5) 学生への情報リテラシー教育環境を充実させるため、最新OSとofficeソフトウェアを利用できるように、マイクロソフト社と包括ソフトウェアライセンスを締結。

- 6) 就職活動等を支援するための方策を検討した結果、民間企業の採用担当経験者を公募によりキャリア支援課長として採用。また、工学部で技術士を就職コーディネーターとして採用。



就職活動支援講演会

- 7) 就職相談体制を充実させるため、宮崎キャリアコンサルタント協会等の協力を得て、キャリアアドバイザーを3人から5人に増員。

(3) 研究の質の向上に関する取組

1) 科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」において採用された10人の特任助教に対し、トロイカサポーター(学内研究者2人、海外研究者1人)体制による指導助言を行い、1人あたり年間500万円の研究費等を配分。



男女共同参画シンポジウム

2) 女性研究者支援モデル育成事業「逆風を順風に宮崎大学女性研究者支援モデル」の成果報告会として「宮崎大学男女共同参画シンポジウム」を開催。本学が実施した女性研究者支援活動が評価され、「宮崎県男女共同参画功労賞」を受賞。

- 3) 文部科学省特別経費「宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進」により、発症に関する周産期ハイリスク因子を抽出し、発達期脳障害の成因の解明を進めるとともに予防と治療に関する対策の確立に役立て、関連する臨床的・基礎的な研究を推進。(医学部)
- 4) 学部長裁量経費に研究の創意・工夫に関する事項の予算枠を設け、廃棄物からレアメタルを回収する研究、太陽光発電研究及びバイオエタノール研究を推進。また、特色ある研究等の推進の結果、最先端・次世代研究開発支援プログラム:ライフ・イノベーション分野に採択。(工学部)



若手研究者の自立的な研究環境整備 促進事業の概要

5) 特色ある大型研究12件を積極的に推進。また、緊急対応型調査研究として、口蹄疫関係の研究を推進。(農学部)

6) 文部科学省特別経費「農林畜産廃棄物利用による地域資源循環システムの構築」により、宮崎県・県内自治体等の地域と連携して、地域のエネルギー自給・資源循環システムの構築を図る。(農学部及び工学部)



口蹄疫に関する研究発表会

7) 文部科学省特別経費「医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト」により、動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾病に対する予防・診断・治療法の開発及び人材の育成。(医学獣医学総合研究科)

8) 文部科学省特別経費「高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有価物への変換プロセスの開発」により、バイオ燃料(バイオエタノール等)の原料となる植物などを粉砕して前処理を行う「衝撃式粉砕・乾燥装置」を全国の大学で初めて導入し、バイオマス生産からバイオ燃料生成まで行うなど、バイオマス研究を推進。(農学工学総合研究科)

(4) 社会との連携の強化

- 1) 産学官連携の推進を強化するため、産学・地域連携担当副学長を新たに設置。
宮崎県及びJSTイノベーションサテライト宮崎との共催で開催した「みやざき産学官連携シンポジウム」において、本学は「地域に出向いて産学官連携のしかけづくり」を宣言し、宮崎県内の各市長を訪問。
- 2) 本学が地域に及ぼす経済効果について初めて調査し、「宮崎大学が地域に及ぼす経済効果報告書」として公表。
- 3) 産学の連携を深めるとともに、産学共同研究への発展や新技術の開発等によって、県内新産業集積の芽を育成するため、産学連携共同研究グループ育成事業を開始。
- 4) 地域社会の発展に寄与するため、宮崎県商工会議所連合会、宮崎県商工会連合会、フェニックスリゾート株式会社、宮崎県ホテル旅館衛生同業組合と包括連携協定を締結。
- 5) 口蹄疫への対応について、宮崎県等と一致協力しながら、復興支援を積極的に推進するため「宮崎大学口蹄疫復興対策支援本部」を設置するとともに、口蹄疫シンポジウムを開催するなど、学術的立場からの支援を実施。



みやざき産学官連携シンポジウム



宮崎県商工会議所連合会及び宮崎県商工会連合会と連携協力に関する協定を締結



口蹄疫シンポジウム

- 6) 鳥インフルエンザへの対応について、農学部内に「宮崎大学鳥インフルエンザ対策委員会」を設置し、学内での鳥類飼育状況の調査及び防疫対策等の協議を行い、教職員・学生に対し注意事項を周知するとともに、宮崎県をはじめ関係機関からの協力要請について積極的に対応。
- 7) 宮崎県が策定した「宮崎県地域医療再生計画」を基に、地域医療に携わる人材育成、地域住民へ医学知識の普及活動等を行うため、宮崎県からの寄附講座「地域医療学講座」を設置し、教授1人、助教3人を配置。
- 8) 東日本大震災への対応について、文部科学省や国立大学協会等の依頼により、本学備蓄品及び調達可能な医療材料等の災害支援物資の提供及び医師、看護師等の医療スタッフ等を派遣。
- 9) 防災研究者、国や県の防災担当者、地域住民が講演やパネルディスカッションに参加する「地域防災シンポジウム in 宮崎2010」を開催。



地域防災シンポジウム in 宮崎2010

(5) 教育研究活動に関連した国際貢献

- 1) 海外の大学等との研究者交流の推進を強化するため、国際連携担当副学長と国際連携室を新たに設置。
- 2) 海外の大学等との交流を行うために、サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校(ブラジル)、カリアリ大学(イタリア)および西北農林科技大学(中国)と新たに大学間交流協定を締結。



カリアリ大学との大学間学術交流協定締結



西北農林科技大学と大学間学術交流協定を締結

- 3) JICAとの連携により、「JICA地域別研修 中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」を実施し、2年間にわたり実施していた「JICA草の根技術協力事業 インドUP州における地下水砒素汚染の総合的対策」を完了。

また、「JICAトルコ国カレイ類養殖プロジェクト短期派遣専門家(魚病管理)」事業により農学部教員2人を派遣。さらに、インドネシア国家開発企画庁(BAPPENAS)との間で第1回Staff Enhancement研究会(OJT)を実施。



JICA地域別研修
「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」



第2回地下水砒素汚染による健康被害と
その対策に関する国際シンポジウム



インドネシア政府職員に対する「官民連携による
社会資本整備手法に関する職員能力強化研修」

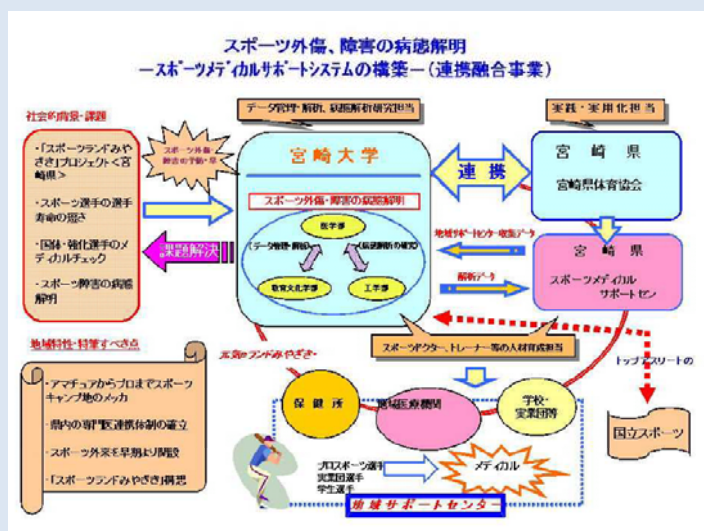
(6) 附属病院に関する取組

1) 患者のプライバシー保護・アメニティーの改善、医療スタッフの業務効率の向上を図った新外来診療棟を稼働。



新外来診療棟の完成記念式典

2) 宮崎県を通して、国から「地域医療再生計画」の事業費の補助を受けることが決定し、本院として平成24年度の「救命救急センター」設置と、ドクターヘリコプター導入を決定。



スポーツ外傷、傷害の病態解明

3) スポーツメディカルサポートプログラムの研究やスポーツメディカル構想の研究成果を活用し、フェニックスリゾート株式会社や宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合と連携協力協定を締結するなど、宮崎県「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に貢献。

4) 「スポーツ外傷、傷害の病態解明ースポーツメディカルサポートシステムの構築ー」(文部科学省特別経費「地域貢献機能の充実」平成19～23年)において、セルフケア支援システム(SelfCare+)を構築し、利用者の健康維持・増進活用や選手育成・障害の予防・早期発見を支援。

5) 診療の質向上や効率の向上に役立てるための「はにわネット」の利用の拡大に向け、宮大病院連携システムの運用を改善。

6) 専門医研修の充実を図るため、大学病院連携型高度医療人養成推進事業により、熊本大学医学部附属病院、大分大学医学部附属病院、本学医学部附属病院の三大学合同で「中九州三大学病院合同専門医養成プログラム」を実施。

(7) 附属学校園に関する取組

附属学校では、「一貫教育に向けた合同学習や乗り入れ授業の取り組み」が、「小中一貫教育支援プログラムの開発と実践」の研究プロジェクトとして、平成23年度予算の特別経費を獲得。

公立学校において小中一貫教育が拡大していることを踏まえて、教育文化学部における「異学校種の教育実習体験」の試行を決定。



附属小学校



附属中学校



附属幼稚園



4. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化の重点的な取組等

- 1) 将来計画委員会及び役員会で大学組織改革について検討を行い、教育研究・地域連携センター及び産学連携センターを教育・学生支援センター及び産学・地域連携センターに再編し、情報戦略室及び情報支援センターを情報基盤センターに再編統合。
- 2) 産学・地域連携及び国際交流の一層の活性化のため、役員・副学長の業務分担を見直し、産学・地域連携担当副学長及び国際連携担当副学長を設置。
- 3) 事務支援体制の充実と事務等の合理化を推進するため、効率化、合理化に繋がる業務の集中化、系の統合・廃止など大幅な事務組織を再編。
- 4) 第1期中期目標期間に引き続き、新たな教育研究体制の構築等に必要な人員を学長が配置できる定員を確保することを決定。
- 5) 教職員構成の多様化を推進するため、「宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル」で採用した特任助教(任期5年)10人(内女性1人、外国人1人)を本学の准教授に採用する目標の設定、宮崎大学男女共同参画シンポジウムの開催、宮崎大学における男女共同参画推進のための「菅沼プラン」を策定。
- 6) 3年間における「女性研究者支援モデル育成事業」の活動を通して、本学において男女の別なく能力が発揮できる職場環境づくりを推進。
これまで本学が実施した活動が評価され、「宮崎県男女共同参画功劳賞」を受賞。



宮崎大学男女共同参画シンポジウム



宮崎県男女共同参画功劳賞受賞

(2) 財務内容の改善の重点的な取組等

- 1) 共同・受託研究の件数増加を図るため、産学・地域連携センターにおいて、無償による「科学技術相談」を実施。
- 2) 戦略重点経費により、「共同研究支援事業」及び「研究シーズ育成事業」を実施。
- 3) 宮崎市より「産学連携コーディネート事業」を受託し、コーディネーター2人を増員。
- 4) 附属病院収入について、理学療法士1人、作業療法士1人の増員を行い、新規施設基準の算定を開始する等の取組により、前年度比9%の増収。
- 5) 附属動物病院においては、新規設備の導入により、前年度比30%の増収。
- 6) 老朽化の問題や利活用が困難である本学所有の施設について、売却する方針を決定。



(3) 自己点検評価及び情報提供の重点的な取組等

1) 学内外に広く公開することを目的として、平成22年度から6年間の「第2期中期目標・中期計画」を、「宮崎大学第2期 6カ年プラン」として、よりわかりやすくウェブサイトで公表。



第2期 6カ年プラン

2) 教員個人の活動状況を点検・評価し、その活動を活性化し、本学の教育、研究等の向上を図るため、教育、研究、社会貢献、管理運営の4つの領域について、教員個人評価実施計画に基づき、教育文化学部・教育学研究科及び工学部で過去3年間の実績に対する総合評価を実施し、ウェブサイトで公表。



宮崎大学サテライト・オフィス

3) 地域社会への情報発信の場として設置していた「宮崎大学サテライト・オフィス」を、市街地ビル8階から中心市街地ビル1階に移設し、広報ビデオを一般向けに放送するためのデジタルサイネージやインターネット端末を設置。

4) 地域住民向けに年3回発行している「宮崎大学MAGAZINE」において、読者の意見を反映して、研究者情報や学生サークル情報のコーナーを新設するとともに、学生広報スタッフが作るページを設ける等内容を充実。

5) 本学が地域に及ぼす経済効果について初めて調査し、「宮崎大学が地域に及ぼす経済効果報告書」として公表。



宮崎大学MAGAZINE



(4) その他業務運営の重点的な取組等

- 1) キャンパスマスタープランに基づき、既存施設の整備状況を現状把握し、第2期中期目標期間で整備すべき施設整備年次計画(病院再整備を含む)を作成し、スポーツ施設改善、講義棟防水改修、バリアフリー対策整備、身障者駐車場整備、トイレリニューアル整備、若手研究者スペース整備を実施。

病院再整備で、救命救急部整備等の見直しを行い、基幹・環境整備として、昇降機設備更新及び共同構内配管更新整備を完成。

- 2) 本学の教育研究施設の活用状況を把握し、その使用方法の適正化を図るため、施設マネジメント委員会において施設有効活用実態パトロール計画を策定。学長をはじめ理事等が参加し、スペースの利用状況、環境対策状況、老朽状況などを調査。

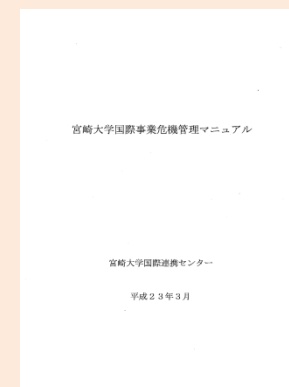


施設有効活用実態パトロール

- 3) 平成25年度までにリスクアセスメントを導入し、安全衛生マネジメントを推進するため、安全衛生管理委員会の下にリスクアセスメント実施検討専門委員会を設置し、スケジュール、実施要項、調査票を策定。

リスクの低減措置等の方策や各種マニュアル等の見直しにつなげるため、日常業務に存在する危険要因についての調査・検証を実施。

- 4) 国際事業の進展に伴い、海外へ派遣される教職員及び学生や外国人留学生等の安全確保を図る観点から、具体的な対応策を示した危機管理個別マニュアルを作成。教職員及び学生に対して、関係部署への配布やウェブ上で周知。



宮崎大学国際事業危機管理マニュアル

- 5) 宮崎県内で感染拡大が続いていた口蹄疫の宮崎大学内への感染及び学外への拡散防止のため、「宮崎大学口蹄疫危機対策本部」を設置し、大学における防疫対策を定め、対応マニュアルを作成。教職員及び学生に対して説明会を開催し、全学的に防疫措置を実施。

宮崎大学の歌

作詞:熊瀬川 逸子
作曲:齊藤 武
補作:菅 邦男

mp

1. そ 1. ひ 2. ら 3. う た かな くだ か み が み の さい
2. ひ 3. や ま な の う まつ く し お す が
3. や ま な の う まつ く し お す が

4
と り た こ あ こ た ひ た む か く の あ き て お ら ん し め く ま く の し さ ろ し む い て

8
こ な の だ い ち み ど り り し ゃ げ れ る ま な 一 び り や 一
あ ゐ る の ご と く こ そ う を た し か く い し 一 一 一 一 一

12
で せ じ ん の か が や ど く は わ だ ち ふ み し あ め
に こ な は な の け ふ ゆ う が た ぐ す む い の ち の し あ め
く と き を か の け ふ ゆ う が た ぐ す む い の ち の し あ め

16
て し ー *f* み ら ー い に か も け る わ こ う ど の } ゆ め と き ぼ う
に し せ ん ん か に を ひ と ろ め は な び た ゆ け る }

20
の み ち し る ー べ *ff* み や ざ き だ い が く

1. 空高く 神々の里 ここ日向
青島望むこの台地 緑茂れる学舎で
先人の輝く轍踏みしめて
未来に架ける若人の 夢と希望の道標
宮崎大学
2. 日向灘 浜木綿の顔色 暖かく
煌めく白い波のごと 心優しく清らかに
木花の風土が育む命愛し
真理を求め学びゆく 夢と希望の道標
宮崎大学
3. 山脈の美し姿 飢肥杉の
天空さして在るごとく 理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する鳥のように
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標
宮崎大学



宮崎大学の歌(校歌)を聞いてみたい方は、クリックしてください。(MP3形式:3.89MB)

企画総務部企画評価課 平成23年6月作成